

## 愛知県北西部のニホンカモシカ (*Capricornis crispus*) の 分布拡大について

辻 大和<sup>1)</sup>

### Recent expansion of distribution of Japanese serow (*Capricornis crispus*) in Aichi Prefecture, central Japan

Yamato TSUJI<sup>1)</sup>

#### 要 旨

近年、愛知県北西部でニホンカモシカ (*Capricornis crispus*) の目撃事例が相次いでいる。本報告では、過去に愛知県が実施した聞き取り調査で生息が確認されなかった犬山市を中心に、県北西部のカモシカの生息に関する情報を収集した。その結果、7市町（名古屋市（守山区）・春日井市・瀬戸市・尾張旭市・東郷町・犬山市・小牧市）から17件の情報が収集された。このうち、東郷町（初記録は2013年）、犬山市（同2014年）、小牧市（同2017年）ではこれまでに数回実施された愛知県の調査で生息記録がなく、ごく最近に同市町に侵入したと考えられる。県内での個体数の増加や、同所的に生息するニホンジカとの競争などによる食物環境の悪化にともない、親の行動圏から離れた若齢個体が県の北西部に残る二次林に沿って分布を広げたことが、近年の目撃情報増加の主要因と推測される。これらの地域では、今後カモシカによる農林被害への警戒が必要であると同時に、保護行政・環境教育上必要な情報を積極的に収集する必要がある。

**キーワード：**ニホンカモシカ，愛知県，分布拡大。

（2018年5月25日受付，2018年12月7日受理，2019年12月27日発行）

#### はじめに

ニホンカモシカ *Capricornis crispus*（以下カモシカ）は、偶蹄目ウシ科の日本固有種で、本州から九州にかけて分布する（環境省，2015）。1925年に狩猟獣から外されて以降、狩猟が原則禁止されてきたが、個体群の回復に伴い、1970年代になって分布域が拡大し、中部地方や東北地方を中心に農作物及び幼齢造林木への被害が顕在化したため、1979年以降、保護区域外に限りカモシカの捕獲・駆除が認められるようになった（環境省，2015）。

愛知県におけるカモシカの分布は、1970年代前半までは奥三河地域の一部（豊根村・設楽町・東栄町）に限

られていたが（宮尾ほか，1984）、1970年代後半以降に分布が拡大し、愛知県が過去4回（2000年，2005年，2010年，2015年）に実施した聞き取り調査によると、カモシカの生息が確認されたことがある県内の自治体は、名古屋市（守山区）・岡崎市・春日市・尾張旭市・瀬戸市・長久手市・日進市・豊川市・豊橋市・豊田市・新城市・設楽町・東栄町・豊根村の11市2町1村におよぶ（愛知県，2017）（図1）。カモシカの分布拡大は現在も続いており、県北西部でのカモシカが目撃事例はしばしば話題になる。たとえば2017年5月に尾張旭市の住宅街にカモシカが出現した際は、テレビや新聞で大きく報道された（たとえば毎日新聞2017年5月12日，東海テレビ2017年5月12日，出典は付記参照）。

<sup>1)</sup> 京都大学霊長類研究所 〒484-8506 愛知県犬山市官林41-2  
Primate Research Institute, Kyoto University; 41-2 Kanrin, Inuyama, Aichi, 484-8506 Japan  
ytsuji1002@gmail.com

カモシカの生態学的情報は、自然保護行政や環境教育において重要であり、また農林業従事者にとっても、害獣対策を行う上で不可欠である。本報告では、2010–2015年の調査（愛知県，2017）で生息が確認されなかった愛知県北西部の犬山市においてカモシカの分布の現状を調べた。あわせて、周辺自治体における情報も収集してまとめ、愛知県北西部におけるカモシカの分布拡大の要因について考察した。

## 方 法

2018年5月に犬山市役所（教育部歴史まちづくり課）を訪れ、担当者から同市におけるカモシカの発見日時と場所、発見時の状況などの資料を入手した。関連資料として、県北西部のカモシカの日撃情報についての文献検索（Google Scholar, Yahoo! Japan）を行い、書籍や論文を探した。補足的に、雑誌・新聞記事横断検索（株式会社ジー・サーチ，東京）を利用し、中日新聞（収録期間2001年4月1日～2018年5月16日）を対象



図1 愛知県北西部のカモシカの日撃情報。犬山市のデータ（2015～）は2018年5月に実施した市役所担当者への聞き取りから、それ以外の自治体のデータ（2010～）については出版物、新聞記事、博物館紀要などの資料から収集した。図中の番号は表1の番号に対応する。太い枠で囲んだ部分は2000年、2005年、2010年、2015年の聞き取り調査（愛知県，2017）で一度でも分布が確認された自治体を示す。

表1 愛知県北西部におけるカモシカの日撃情報のまとめ。

No.	日付	場所	備考	個体数	出典
1	2006.9月	名古屋市守山区東谷山	自動撮影カメラによる撮影。1996年以來日撃情報あり	1-2	名和(2009)
2	2010.4.10	春日井市玉野町	旧国鉄中央線廃線跡沿いで、茂みの中から顔を出した。崖に移動ししばらく撮影者一行を見つめていた	1	中日新聞(2010.4.19朝刊16頁 知多版)
3	2010.4.13	名古屋市守山区東谷山	食べ跡、糞などから確認	1-3	中日新聞(2010.4.13朝刊32頁 第2社会面)
4	2010.6.1	瀬戸市上品野	名古屋学院大瀬戸キャンパスに迷い込み、校舎のガラスを割った。2009年の冬にも日撃情報あり	1-2	中日新聞(2010.6.2朝刊 近郊総合版)
5	2011.3.27	尾張旭市新居	柵を超えて道路に出てきた	1	渡津・河野(2014)
6	2012.10.25	尾張旭市新居	道路わきにいたが北方面に逃げていった	1	渡津・河野(2014)
7	2013.5.16	東郷町愛知池周辺	愛知池近くの茂みから顔を出し、数分後に茂みに姿を消した	1	中日新聞(2013.5.21朝刊18頁 市民版)
8	2014.9.15	犬山市八曾	川沿いで発見	1	犬山市教育部歴史まちづくり課
9	2016.8.2	春日井市高森台	中学校のフェンス付近	1	中日新聞(2016.8.3朝刊17頁 近郊版)
10	2017.5.1	犬山市八曾	山の中におり、じつところを見つめた後に立ち去った	1	犬山市教育部歴史まちづくり課
11	2017.5.12	尾張旭市井田町	市街地を歩き回り、工場地帯に逃げ込んで捕獲された	1	中日新聞(2017.5.13朝刊35頁 社会面)
12	2017.5.21	犬山市犬山	寺の境内で発見され、北東方面に歩き去った	1	犬山市教育部歴史まちづくり課
13	2017.日付不明	小牧市野口	小牧東IC付近	1	犬山市教育部歴史まちづくり課
14	2018.4.10	犬山市塔野地	京都大学の職員宿舎の庭で採食した後、南に歩き去った	1	犬山市教育部歴史まちづくり課
15	2018.4.23	犬山市犬山	寺の境内で発見され、北東方面に歩き去った	1	犬山市教育部歴史まちづくり課
16	2018.5.20	犬山市今井成沢	野外民族博物館リトルワールド園内にて発見。右足を一本欠損していたが、元気づくに活動していた	1	犬山市教育部歴史まちづくり課
17	2018.5.21	犬山市継鹿尾川端	不老の滝周辺の林道にて発見したが、山へ立ち去った	1	犬山市教育部歴史まちづくり課



図2 愛知県犬山市で撮影されたニホンカモシカ。a) 犬山市八曾 (2014.9.15, 撮影：中村篤史氏), b) 犬山市塔野地 (2018.4.10, 撮影：辻玲奈氏)。

に記事検索を行った。検索の際のキーワードは「カモシカ」「愛知」を用いた。

得られた資料から、目撃時のカモシカの行動、個体数などの情報を抽出した。発見された場所の緯度・経度・標高に関する正確な情報がほとんどなかったため、地区名のみを示した。

## 結 果

犬山市および近隣の自治体で記録されたカモシカの目撃情報を表1に、目撃された場所を図1に示した。犬山市で7件、小牧市で1件、瀬戸市で1件、尾張旭市で3件、春日井市で2件、名古屋市守山区で2件、東郷町で1件の、計17件の報告があった。このうち2件(事例8, 14)では写真も撮影された(図2)大部分の事例では、目撃された個体は1頭だけだったが、名古屋市守山区東谷山(事例1)では自動撮影カメラに親子が写っており、2006-2009年にここで繁殖していたと考えられる(名和, 2009)。瀬戸市上品野町(事例4)では、

大学キャンパス内でカモシカと思われる2頭が観察された(中日新聞2010年6月2日朝刊, 近郊総合版)。

## 考 察

愛知県におけるカモシカの分布は、1970年代前半までは奥三河地域の一部(豊根村・設楽町・東栄町)に限られていた(宮尾ほか, 1984)。しかし、愛知県が2000年、2005年、2010年、2015年に実施した聞き取り調査によると、名古屋市(守山区)・岡崎市・春日井市・尾張旭市・瀬戸市・長久手市・日進市・豊川市・豊橋市・豊田市・新城市・設楽町・東栄町・豊根村の11市2町1村で生息が確認されており(愛知県, 2017; 図1)、1970年代から2015年の間に、カモシカの分布が西部に拡大したと推測される。東郷町(初記録は2013年)、犬山市(同2014年)、小牧市(同2017年)の2市1町では、県による過去の調査(愛知県, 2017)でカモシカの生息記録がなかったことから、ごく最近に同市町に侵入したと考えられる。

愛知県北西部での分布の拡大の要因として、現存植生の分布との関連が示唆される。愛知県の北東部の山地にはスギ・ヒノキ等の針葉樹植林地が広く分布し、その中に二次林が点在している(図3)。植林地の西側には、広葉樹二次林が南北に帯状に伸びており、これはかつて薪炭林として利用された里山地域である(愛知県, 2017)。これらの里山は、中山間地域と平地との緩衝帯としての役割を担ってきたが、近年の利用頻度が減少したことにより、1970年代以降、カモシカは落葉広葉樹林等が生育するこれらの場所まで分布域を拡大した可能性がある。愛知県北西部は、県北東部から続く二次林の西端にあたる(図3)。分布を西へ拡大してきたカモシカが、2014年以降に犬山市に達したのだと考えられる。同様の二次林は、知多半島地域にも残されており、今後、県中央部に残存する森林を経由して、カモシカがこの地域にも侵入する可能性がある。

カモシカの分布拡大を引き起こした第二の要因として、愛知県内における本種の生息数の増加が挙げられる。推定密度に生息森林面積を乗じて求めた県内の推定個体数は、2010年の1372頭から2015年の1874頭にまで増えた(愛知県, 2017)。個体数増加による食物環境の悪化にともない、親の行動圏から離れた若齢個体が、低木の葉や果実などの食物(落合, 2016)を求めて県の北西部に残る二次林沿いに分布を広げた可能性がある。第三の要因として、同所的に生息するニホンジカ(*Cervus nippon*)との競合の可能性も挙げられる。栃木県の足尾や三重県の鈴鹿山地ではシカの密度が著しく上昇した結果、カモシカの密度が低下するという現象が起きている(名和, 2009; 落合, 2016; 橋本・森,

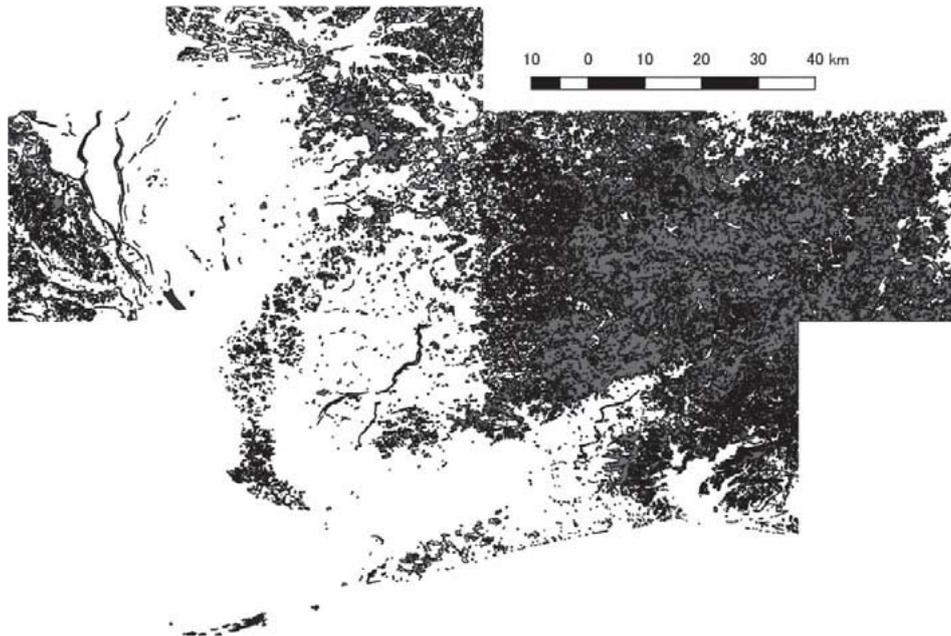


図3 愛知県内の現存植生（出典：環境省自然環境局生物多様性センター自然環境調査）。灰色の部分は針葉樹二次林を、黒の部分は落葉広葉樹二次林をそれぞれ示す。

2018)。愛知県でも、シカに生息地を追われたカモシカが、分布を新たな地域に広げている可能性がある。

カモシカは、愛知県北西部で繁殖していると考えて良いのだろうか。現時点ではっきりした答えを出すことは難しい。カモシカはなわばり性の強い動物で、十数 ha から数十 ha の行動圏を比較的長期にわたって維持する（落合，2016）。生まれたコドモは生後2～3年で生まれ育った場所から離れ、隣接して行動圏を構えるのが一般的である（落合，2016）。この地域でカモシカが繁殖しているなら、瀬戸市以东から犬山市にかけて、複数個体が連続分布するはずだが、名古屋市守山区の事例（名和，2009）を除き、繁殖はまだ確認されていない。いっぽう、北西部で目撃されたカモシカは、行動圏を求めて放浪中の個体だった可能性もある。長野県では放浪を行う個体はすべてオスであり（大町山岳博物館，1991）、また青森県でもオスの方がより長い距離を移動する傾向が指摘されている（落合，2016）。今回収集した目撃情報では、個体の性別は不明であったため、この可能性も検証できなかった。愛知県での特定計画では、性別、年齢についての情報を収集し生息情報マップを作成することを各市町村に求めている（愛知県，2017）。これを周知徹底し、今後死体などが回収された場合は、性別を含めた詳細な計測データを残すことが望ましい。

愛知県でのカモシカによる農業被害は2015年度で120万円程度だが、被害の程度は増加傾向にある（愛知県，2017）。林業被害についても、カモシカによる新植した林業苗木への被害が指摘されている（愛知県，2017）。カモシカが分布を拡大した北西部では、田畑や

若齢林に侵入して被害を出す可能性があるため、カモシカの今後の動きを注意深く監視する必要がある。これらの地域での保護政策・環境教育の実施を考える際も、本種に関する基礎的な情報の収集が不可欠だろう。ただし、他の動物による被害をカモシカの害と誤認したケースも報告されており（山田・關，2017）、調査によって得られた加害獣種の情報は、関係機関と共有するのが望ましい。

## 謝 辞

中村篤史氏（犬山市教育部歴史まちづくり課）と辻玲奈氏（犬山市塔野地）には、犬山市内でのカモシカの目撃情報を提供していただくとともに、カモシカの写真を提供いただいた。麻布大学の高槻成紀氏、兵庫県立大学の高橋鉄美氏と匿名の査読者には有益なコメントをいただいた。京都大学霊長類研究所の高井一恵氏にはカモシカの分布に関する資料を提供いただいた。以上の方々に、この場を借りてお礼申し上げます。

## 文 献

- 愛知県（2017）特定鳥獣保護管理計画（カモシカ）。愛知県環境部自然環境課，愛知，24 + 16 p.
- 橋本幸彦・森豊（2018）鈴鹿山地カモシカ保護地域におけるニホンカモシカの分布の変遷。野生生物と社会 **5**，1-8.
- 環境省（2015）特定鳥獣保護管理計画作成のためのガイドライン。種別編，pp. 17-51.

環境省自然環境局生物多様性センター自然環境調査 Web-GIS  
(2018年5月17日閲覧)

[<http://gis.biodic.go.jp/webgis/sc-023.html>]

宮尾嶽雄・花村肇・高田靖司・酒井英一(1984) 哺乳類. 佐藤正孝・安藤尚(編), 愛知の動物 愛知文化シリーズ(3), 愛知県郷土資料刊行会, 名古屋, pp. 286-325.

名和明(2009) 森の賢者カモシカ—鈴鹿山地の定点観察記—. サンライズ出版, 彦根, 185 p.

落合啓二(2016) ニホンカモシカ—行動と生態—. 東京大学出版会, 東京, 276 p.

大町山岳博物館(編)(1991) カモシカ—氷河期を生きた動物—. 信濃毎日新聞社, 長野, 208 p.

渡津友博・河野重範(2014) 尾張旭市の愛知県森林公園で確認さ

れたニホンカモシカ. 豊橋市自然史博物館研報 **24**, 37-38.  
山田雄作・關義和(2017) カモシカの現場に迫る. 哺乳類科学 **58**, 107-108.

## 付 記

毎日新聞 2017年5月12日(2018年5月17日閲覧)

[<https://mainichi.jp/articles/20170512/k00/00e/040/310000c>]

東海テレビ 2017年5月12日(2018年5月17日閲覧)

[<https://matomame.jp/user/bohetiku/919097ae85cdfcc238f2>]

